

2006年度未踏ソフトウェア創造事業(未踏ユース)

共同ローカリゼーションフレームワーク

L×L (エレクトセル)

開発者: 井上 謙次
(大阪工業大学)

ソフトウェアローカリゼーション(翻訳)を支援するWebアプリケーション

オープンソースソフトウェアのローカリゼーション支援を**第一目標**に掲げて開発しました。

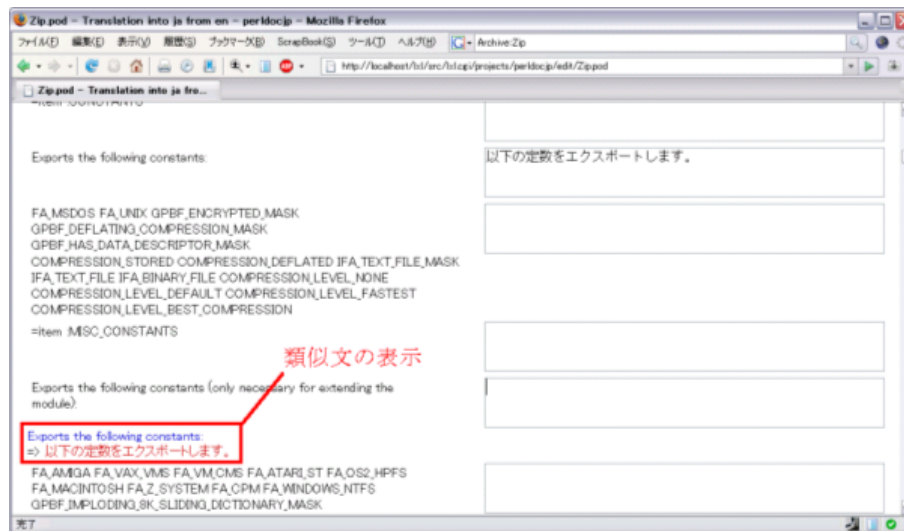


図 LxLの編集画面 (翻訳メモリからの類似文の表示)

グループウェア —— チーム作業を簡単に

- リソースファイルをサーバにアップロードして皆で翻訳できます。
- Webブラウザさえあれば翻訳から進捗管理まで可能です。

共有翻訳メモリ —— 過去の翻訳文を再利用

- 過去に翻訳された類似文を見ながら作業ができます。
- 翻訳メモリを自動的に共有することで、他の翻訳チームの成果も利用可能です。